

社会資本総合整備計画(第3回変更)

快適で暮らしやすい市街地の形成

平成26年3月25日

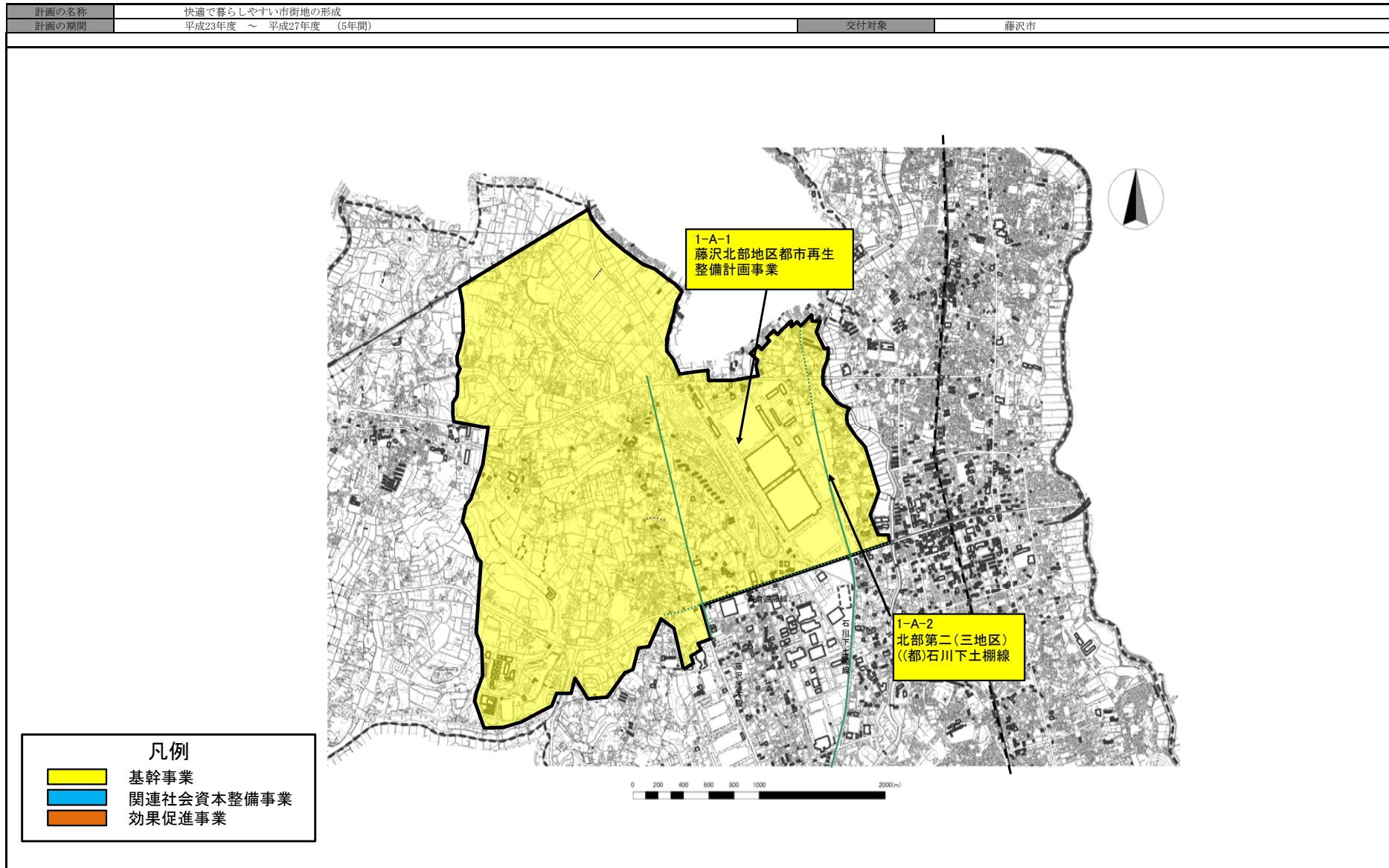
神奈川県藤沢市

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成26年3月25日

計画の名称	快適で暮らしやすい市街地の形成																																						
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）					交付対象	藤沢市																																
計画の目標	<p>藤沢市の北部地域は、昭和30年代後半に大規模工場の進出や急速な首都圏の都市化に対応するため、職住近接の地域形成とスプロール市街地の防止を目的に区画整理事業を段階的に進めてきた。平成11年の相模鉄道いずみ野線、横浜市営地下鉄の湘南台駅への乗り入れにより交通の利便性が向上し、人口流入や大型集合住宅の建設も進んでいる。一方で地区の西側は基盤整備の遅れから、防災性も脆弱な市街地が形成され、広域避難場所までのアクセス不良や生活道路への通過交通の侵入など、生活環境の悪化が進んでいる。</p> <p>このような居住環境を改善するため、土地区画整理事業により、スポーツ施設、狭あい道路の改善などの都市基盤整備を進め、良好な街並みへの誘導を行い快適で良好な居住環境を創出する。</p>																																						
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 地区内での車輛移動時間に要する時間の割合 100% (H23) から60% (H27) に短縮 使用収益開始面積割合を 20% (H23) から40% (H27) に増加 地区内で拡大された認可区域における下水道の整備面積割合を0% (H23) から50% (H27) に増加 土地区画整理事業により造成する宅地面積をH26からH27の2カ年で5haとする。 																																						
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H23当初)</th> <th>中間目標値 (H25末)</th> <th>最終目標値 (H27末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地区内での車輛移動時間に要する時間の割合</td> <td>100%</td> <td>80%</td> <td>60%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>使用収益開始面積割合</td> <td>20%</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地区内で拡大された認可区域における下水道の整備面積割合</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>50%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土地区画整理事業により造成する宅地面積</td> <td></td> <td>0ha</td> <td>5ha</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)	地区内での車輛移動時間に要する時間の割合	100%	80%	60%		使用収益開始面積割合	20%	30%	40%		地区内で拡大された認可区域における下水道の整備面積割合	0%	20%	50%		土地区画整理事業により造成する宅地面積		0ha	5ha	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																																			
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)																																				
地区内での車輛移動時間に要する時間の割合	100%	80%	60%																																				
使用収益開始面積割合	20%	30%	40%																																				
地区内で拡大された認可区域における下水道の整備面積割合	0%	20%	50%																																				
土地区画整理事業により造成する宅地面積		0ha	5ha																																				
全体事業費	合計 (A+B+C)	7,426百万円	A	7,426百万円 (内提案分：252百万円)	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 (A (提案分) + C) / (A+B+C)	3.4%																													
交付対象事業																																							
A1 基幹事業																																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																								
									H23	H24	H25	H26	H27																										
1-A-1	都市再生	一般	藤沢市	直接	藤沢市	藤沢北部地区都市再生整備計画事業	区画整理、道路、下水道等 A=760ha	藤沢市						6,091	添付1																								
1-A-2	街路	一般	藤沢市	直接	藤沢市	北部第二（三地区）（(都)石川下土棚線外)	区画整理 A=275.2ha	藤沢市						1,335																									
合計													7,426																										
B 関連社会資本整備事業																																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																								
									H23	H24	H25	H26	H27																										
合計													0																										
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																												
C 効果促進事業																																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																								
									H23	H24	H25	H26	H27																										
合計													0																										
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																												

(参考図面) 市街地整備 (記載例)



参考

事前評価資料

社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 快適で暮らしやすい市街地の形成 事業主体名: 藤沢市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	<input type="radio"/>
2)上位計画等と整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	<input type="radio"/>
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	<input type="radio"/>
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	<input type="radio"/>
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	<input type="radio"/>
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	<input type="radio"/>
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	<input type="radio"/>
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	<input type="radio"/>
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	<input type="radio"/>
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	<input type="radio"/>
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	<input type="radio"/>
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	<input type="radio"/>